

「渋滞目前」

—初稿—

2025/9/5

雨森 れに

〈人物表〉

佐久間 隼人	(32)	不動産営業マン
小森 誠二	(54)	バスジャック犯
井上 太陽	(40)	バス運転手
依田 みなみ	(28)	健診帰りの妊婦
戸高 悠	(17)	寝坊した高校生
小沢 浩一郎	(80)	病院帰りの老人
小沢 祥子	(79)	浩一郎の妻

1. 高速道路（昼）

事故により20キロほど渋滞している。

2. バス・外観（昼）

小型のコミュニティバス。※文京区の「Bーぐるバス」のイメージ

インターチェンジに近い道を走っている。

バス停に近づくが、減速せず通過。

3. バス停（昼）

インターチェンジ前のバス停。

バスの通過に待っていた人間が驚く。

バスはそのままインターチェンジへ。

4. インターチェンジ（昼）

バスがETCを通り、高速へ入る。

電光掲示板には「■■■IC 事故20Km渋滞」と表示されている。

5. バス・車内（昼）

前乗り乗車のバス。座席は井上側に一人掛けが5席並び、反対側にも一人掛けが2席並び。最後尾に三人掛けのシートがある。

乗客は5人。みな両手を挙げている。

運転席の真後ろに佐久間隼人（32）が座っている。緊張した面持ちで、ゆっくりと後ろを見る。

すぐ後ろの席で、マタニティマークをつけた依田みなみ（28）が青白い顔をしている。

反対側の席では、小沢浩一郎（80）と小沢祥子（79）が並んでおり、やはり緊張した様子。

最後尾シートの端には、制服姿の戸高悠（17）。

小森 「後ろ見んじゃねえ」

隼人、慌てて正面を向く。

小森誠二（54）が、井上・井上太陽（40）に血

の付いた刺身包丁を突き付けている。

井上は腕を切りつけられており、片腕で運転している。何度となく緊急ボタンを見るが、ハンドルから手を離すわけにもいかない状態。

小森、隼人を睨む。

が、すぐ後ろのみなみのスマホショルダーに気づき、

小森 「女、こっちにケータイ持ってこい」

みなみがヒュッと息をのむ。

小森 「早くしろ！」

みなみ 「（どもりながら）すみません」

スマホショルダーを取り、立ち上がろうとするが腰が抜けて動けない。

小森、舌打ちをし、隼人を指さす。

小森 「お前が貰え」

隼人、後ろを向き、みなみからスマホを貰う。

そのまま小森に差し出す。

小森 「お前のと、他の奴のも」

隼人、自分のスマホを取り出し、渡していいものかと迷う。が、しぶしぶ渡す。

立ち上がり、小沢夫妻にゆっくりと近寄る。

できるだけ優しい声色を作り、

隼人 「携帯、持ってますか」

浩一郎、祥子に向かって、

浩一郎 「出さない」

祥子、鞆を開け、ガラケーを2台取り出す。

隼人、それを受け取る。

最後尾の戸高の元に行こうとするが、

小森 「ガキは自分で持ってこい。んでこっちに座れ」

と小森に止められる。

隼人、戸高と目を合わせ、頷く。

戸高、スマホを出そうとし、落とす。

段差に当たり、降車口の前へ。

戸高のスマホが大音量で鳴る。軽快な音楽が響く。

隼人、戸高のスマホを拾う。

それと同時に戸高が腰をあげる。

小森 「動くな！」

全員が静止する。

音楽は鳴り続けている。

小森 「いつ留守電になんだよ」

戸高 「あの、電話じゃない……です。アラームです」

祥子 「そんなっ」

小森、祥子を睨む。

そして、隼人に命じる。

小森 「見せろ」

隼人、緊張しながらスマホを見る。

残念そうな表情を浮かべる。

そのまま小森に画面を見せる。

アラームの画面である。

小森 「消せ」

隼人、操作し、音楽が止まる。

みなみ、小沢夫妻は落胆している。

小森、隼人から携帯を受け取る。

全員に言い聞かせるように、

小森 「変なことしようとしたら、井上から殺す」

包丁を井上の首に軽く押し込む。

小森 「すごい事故になるんじゃないかねえか？」

血が一筋流れる。

隼人、ごくりと唾を飲み込む。

6. 高速道路（昼）

空いておらず、等間隔で車が走行している。
その中には隼人らが乗っているバスもある。

7. バス・車内・運転席（昼）

井上、渋滞表示板に気づく。

「この先渋滞20Km 2時間以上」と出ている。

緊急ボタンと動かない腕を交互に見る。

ハンドルをきつく握る。覚悟を決めたように。

8. バス・車内（昼）

小森は背を向けているため表示板に気づかない。
運賃箱に寄りかかり、乗客に目を向けながらも井上に包丁を突き付けている。
人質らをなめており、緊張感がない。

9. 高速道路（昼）

バスから10Km先、渋滞の列。

10. バス・車内・運転席（昼）

井上の足がブレーキを踏む。
速度が徐々に落ちていく。

11. バス・車内（昼）

隼人、窓の外を見る。
流れる景色が、遅くなっていくことに気づく。
小森、腰を叩く。捻って軽くストレッチをする。
包丁が井上から少し離れる。
井上、それを見て思いつきりブレーキを踏む。
急ブレーキがかかる。
バス後方に車がぶつかる衝撃。
小森、フロントガラスにぶつかる。
包丁が隼人の横に落ちる。
隼人、すかさず包丁を後ろに蹴とばす。

隼人 「拾って！」

包丁が段差にぶつかる。

戸高、急いで包丁を拾う。

小森が立ち上がる。

井上の手が緊急ボタンの上にあることに気づく。

小森 「てめえ！」

殴りかかろうと身を乗り出す。

しかし、隼人が小森を羽交い絞めにする。

隼人 「もうやめろ！」

小森、足で隼人を押しのけようとともがく。
隼人、更に力を込めて離れない。

小森が後頭部で頭突きする。

隼人、よろけ、腕の力が弱まる。

小森、振り向いて隼人の頬を殴る。

隼人が倒れる。

小森が馬乗りになり、何度も殴る。

鈍い殴打音が続く。

みなみ、恐怖で泣き始める。

祥子も震えて身を小さくしている。

小森、満足げに立ち上がる。

戸高、小森が自分を見ていることに怯える。

小森、一步踏み出す。

隼人、小森の足を掴む。

血だらけの顔で、小森を睨む。

小森 「しつねんだよ！ 死ね！」

小森が隼人を踏みつける。

隼人のうめき声。

浩一郎が小森にタックルする。

小森が倒れる。

隼人、小森を抱きしめるようにして離さない。

戸高、包丁を捨て、小森の上に覆いかぶさる。

浩一郎もそれに倣う。

小森の怒声。

隼人、押しつぶされながら堪える。

バスのドアが開く。

12. 高速道路（昼）

渋滞列の目前。

バスのボンネットに一般車がぶつかっている。

周辺のドライバーが車から降りて集まっている。

数人が慌てたようにバスに入っていく。

遠くからパトカーが近づいてくる。

おわり